

# 規模に圧倒された交流会議

結核予防会複十字病院

呼吸器センター医長 奥村 昌夫

1991年に結核予防会宮城県支部と中国瀋陽市防痲協会の間で始まった結核予防及び胸部疾病日中友好交流会議は、第21回会議より宮城県支部から東京本部に移行し今年で第26回の開催となりました。開催は日本と中国と交互に行われており、今年は9月5日から10日まで中国の瀋陽市と長春市での開催となりました。日本からは岡田耕輔本会理事・国際部長はじめ、小林典子本会理事・募金推進部長、鈴木修治宮城県結核予防会健康相談所興生館所長、羽入遥子本会結核研究所事務部研究支援室員と私の5名が参加してまいりました。

5日に瀋陽市到着後、劉先生(瀋陽市防痲協会理事長、瀋陽市胸科医院院長)、姜彭嘉先生(瀋陽市防痲協会副理事、瀋陽市胸科医院事務長)等多くの先生方から豪華な歓迎会をしていただきました。翌6日は午前8時より学術交流会議が行われ、中国側からは200名ほどの多くの先生方が参加されました。日本側からは岡田先生が〔End TB strategy and success story in Cambodia〕、小林先生が〔日本DOTSの現状〕、私が〔Management of multi-drug resistant tuberculosis (MDR-TB)〕のタイトルにて講演を行ってまいりました。午後は瀋陽市胸科医院を見学させていただきました。新築された結核病棟を見学させていただきましたが、結核病床数600床とのことで、日本と中国は人口も結核罹患率も大きく異なりますが、規模の違いに圧倒されました。翌日は市内を観光案内していただき、夕には豪華な送別会をしていただきました。中国では出席者全員がそれぞれ乾杯の音頭をとり、その都度中国の強い酒である白酒を一气飲みさせられたのは参りました。一气飲みの量で友情の深さが異なるそうです。

8日午前新幹線で長春市に移動し、長春市胸科医院の張儀病院長をはじめ多くの先生方から歓迎を受けました。午後から長春市においても学術交流会議が開催されました。日本側からは前述のタイトルにて3名が発表してまいりました。夕からはこちらでも盛大な歓迎会をしていただき、瀋陽市と同様友情の証として乾杯を何度も重ねてまいりました。9日は偽満皇宮博物院に案内していただきました。溥儀の一生と中国侵略の展示物を見て回りました。午後からは長春市伝染医院を見学させていただきました。病床数600床のうち結核病床が500床を占め、その他は麻疹、手足口病などの感染症とのことですが、こちらでもその規模に圧倒されました。その後今回の長春でのスポンサーである長春北薬有限公司など15社の会長を務める公会長の工場、研究施設などを訪問しました。中国のみならず、インドネシア、マレーシア、ロシアにも進出している漢方薬製造販売を主とする事業の会長で、かつ、長春市議員代表を務める政治家でもあるようです。夕は公会長の別荘にご招待を受け、ここでも豪華な送別会をしていただき何度も乾杯を重ねました。夜は公会長の別荘に宿泊させていただき翌日帰路につきました。瀋陽市、長春市と2度講演をする機会をいただき、しかも連日朝ホテルの部屋を出てから夜戻るまで豪華な接待を受け、帰国の途に着く際にバスの運転手が空港への道を間違えて飛行機に乗り遅れそうになるドタバタ以外は非常に充実した交流会となりました。🍷



200名もの参加者で熱気を帯びた交流会議(瀋陽市)



新築された結核病棟(瀋陽市)



質問に回答する筆者(長春市)